

新屋まちづくりへのご意見・ご要望等

※提出日順

	意見の要旨	市の考え方・対応
1	交流スペースについて、小さくても良いので温泉などの入浴施設を設ける。市民のコミュニケーションの場となり、風呂好きの日本人ともあって、新屋以外の遠方の客の呼び込みになる。	昨年の基本構想において「芸術と文化が薫るまち新屋」をコンセプトとし、ものづくりの精神の伝承など、まちづくりの拠点を整備するとしており、施設機能としては不要と考えております。
2	ギャラリーについて、美大生や美術の作品のみならず、市民の短歌、俳句等の文芸などの作品も展示してほしい。	西部市民サービスセンターはサークル活動の展示など市民活動の場として設置しております。各施設の趣旨を踏まえ、ご活用ください。
3	建設予定地は、新屋駅前の医院跡地の方が望ましい。駅・バス停に近く、国道7号線を車で通ると見つけやすいので、より人が集まると思う。人を呼び込めるかは場所によると思う。	昨年の基本構想において「美術大学とJR新屋駅から等距離で、歴史ある町並みや湧水などの地域資源をいかすことができる」場所として建設予定地を適地としたものです。
4	交流スペースについて、資料閲覧コーナーを設けて欲しい。	交流スペースは、地域交流（地場産品販売やクラブ展など）に弾力的に活用することとしています。地域の方々も運営に関わることを想定しており、新屋の歴史や史跡の資料設置なども、今後検討してまいります。
5	本計画推進メンバーや責任者、代表者を記載してほしい。	本事業は、企画財政部企画調整課が担当しております。ワークショップに参加いただいた市民の方々の氏名については、個人情報のため、公開しません。
6	本事業の予算はいくらなのか提示してほしい。	基本計画に記載することとしております。
7	意見の公表は、いつ、どのようにするのも記入して配布すべきである。	今後、ご意見に留意して対応いたします。
8	ギャラリーは常設しても来訪者はごく少数だと思う。期間限定で、今ある建物で対応するだけで十分。新設はムダ使いになる。 カフェは、利用者は最初だけである。新屋の地場産品とは何（水だけ）?特色あるものなし。まして年中はムリ。作家やスタッフの作品販売は、興味ある人は少なく、売れる見込みは期待なし。 ガラス工房は、ガラス作りに興味ある市民は、ほんの一握りもない。	地域の方々に、日常的に使用される施設を目指してまいります。

意見の要旨	市の考え方・対応
<p>9 「秋田市しあわせづくり市民意識調査結果」では、「秋田市に力を入れて欲しい施策」や「秋田市に住み続けるために必要と思われること」の上位に、雇用の場の確保、除雪対策等が挙げられ、歴史や文化・芸術より、実生活に結びついた切実な問題に力を入れてほしいと願っている根拠が示された。行政はその市民の要望に添って取り組む必要があるのではないかと。秋田県は人口減少、少子高齢化等々、全国ワースト1が多い。このままでは近い将来消滅する可能性がある市町村も一番多く、秋田市も例外ではない。これまでも秋田市はムダなハコモノを数々つくり、莫大な市税が投入され、現在秋田市の借金は1,400億円もあるがどうする気なのか。人口減で秋田市の収入が増える見込みはないため、これ以上借金を増やさないと、ムダなハコモノをつくらないことしかない。新屋・土崎と建物を建ててムダ使いをせず、見通しをしっかりと持つべきだ。新設は市庁舎と文化会館だけで良い。今後は老朽化して補修や建て替えも必要になることから、新たに地区ごとのハコモノは建ててはならない。現在あるアルヴェやアトリオン、エリアなかいちの交流館、セリオン、コミセン、赤れんが館等々で活用されていないスペースもあることから、それらを有効活用して対応する方法を考えてはどうか。加えて「秋田の顔」の駅前がさびれては観光客も呼び込めないため、まずは駅前の充実を図ってもらいたい。</p>	<p>いただいたご意見等については、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>10 作家やスタッフと市民を繋ぐ役割をするまちづくり専門スタッフあるいは職員の配置が計画されていない点が非常に危惧される。作家や現在想定しているスタッフは制作者であって、「まちづくり」に精通しているわけではない。施設をまちづくり拠点として重要視するのであれば、地域に出て活動することを念頭に置いた、まちづくり専門スタッフの配置が不可欠ではないか</p>	<p>管理運営を検討する段階でご意見を参考とさせていただきます。</p>
<p>11 交流スペース（ホワイエ）は、フライヤーの配架棚やコピー機なども置かれる可能性があり通路でもあるため、交流スペースとして使用するには狭いように感じる。動線として考えられる部分よりも東側に広げ、広々とした空間を設けてはどうか。現状では交流できるスペースではない、ショップ・カフェの前まで広げ、半オープンカフェとしても利用できる空間にしてはどうか。ロビーとしても役割も与えることができる。</p>	<p>基本設計・実施設計の段階でご意見を参考とさせていただきます。</p>
<p>12 空調的に可能であれば、事務室は通路に向けてオープンにし、扉や窓で境界をつくらない方が、利用者や来場者との関係性が良好になると思われる。</p>	<p>基本設計・実施設計の段階でご意見を参考とさせていただきます。</p>
<p>13 「歴史と文化を活かした住民主体のまちづくり」という目標に賛成する。ただ、そのために何故ガラス工房が必要なのかという理由が現案ではどこにも見当たらず、よくわからない。美術大学の一部の機能を特化して新屋のために役立て、何となくお洒落で、透明感のあるガラスを主力商品にしたい、というイメージ戦略以上の動機が現時点の基本計画では見えない。</p>	<p>新屋まちづくり基本構想(平成25年3月)において、ものづくりの精神を継承するための工房は、「あきたガラスフェスタ」の実績を踏まえて、当初はガラス工房からの整備を想定する」との整理としております。ご意見をもとに、基本計画に反映させてまいります。</p>

	意見の要旨	市の考え方・対応
14	「歴史・文化の継承」ということであれば環日本海の醗酵文化と新屋浜の漁撈文化を、「ものづくりの精神」ということであれば、むしろ造船文化に根差したさまざまな工芸技術にこそ、新屋の持ち味を求めるべきではないか。	ご意見は参考とさせていただきます。
15	ガラス工芸を中心とする案を成功させるのであれば、木質化建築や湧水を活かした食文化との連携を大きく打ち出し、火・土・水・風といった原理にまで技術思想を深めて再構築する必要があると考える。歴史的な交易品であり、譲与価値を帯びた聖物として尊重された「宝物」としてのガラス文化を、21世紀の新屋に本気で根付かせようとするのなら、むしろ徹底的に新しい、他所に類例のない斬新な施設として、北方諸民族やアメリカ大陸まで交易されたガラス交易を現代に蘇らせるほどの新鮮なビジョンを戦略的に打ち出す必要があると思う。	施設は、周辺の歴史ある町並みとの連携に配慮し、木造（一部鉄筋コンクリート造）平屋建を想定しております。 また、建設予定地周辺には湧水が点在することから、施設内での地下水活用や、広場への水場の整備を検討することとしております。 ご意見は参考とさせていただきます。
16	成熟したクラフト市場を育成するためには、年間若干名の「作家」を支援するだけでは不十分なため、広域の芸術・工芸・産業連携のハブとして機能するよう、諸地域の成功事例を参照しつつ、他所の二番煎じではない独自の文化発信拠点が築かれることを希望する。	施設では独立・起業を目指すスタッフを雇用し、作品制作のほか、地域との交流を含めた企画事業を経験し、独立・起業までのノウハウを身に付けることを想定しています。 他地域や異分野・異業種との連携についても、検討してまいります。
17	新潟県村上市に行ったことがあるが、新屋のように古い町並みが続いていた。多くがシャッターで、その中で数店（酒飯店・鮭燻製・お茶屋・酒蔵）をガイド付きで見学できた。 新屋と比べても大して変わらない規模と思うが、こういう施設があるというのは、素晴らしい戦力になると思う。ハード面ばかりでなく、ソフト面も充実しなければならぬ。ここで、新屋の歴史・文化を説明してから、ガイド付きで町中に繰り出し、酒蔵や醤油・味噌の醸造、商店街、蔵、神社仏閣、湧き水などを見学してもらう。当然、物販も充実しなければならぬ。ここを旅行代理店の観光ツアーに入れてもらい、大型バスでの観光対応もしなければならぬと思う。	施設の運営には、地域の方々に関わることも想定していることから、新屋の歴史・史跡の案内窓口や資料設置など、今後協議・検討してまいります。 物販・観光に対するご意見は参考とさせていただきます。
18	去年6月の鹿嶋祭の際に、ここの跡地を利用してイベントを開催した。15の町内の船が集まり、鹿嶋太鼓の競演まで起こった。これからも、ここを活用したい。湧き水を利用した水場は、雰囲気的に良いと思う。	交流広場は、地域交流の場とし、鹿嶋祭などの際は地域での利用が可能な想定としております。
19	西側駐車場は、関係者しか使えないような中途半端になっている。大型観光バスを想定していない。もっと広げて、スロープまで繋ぐべきである。周辺の住宅が近いので、騒音対策が必要である。	敷地西側は、道路の幅員から、大型バスの通行は想定しておりません。 周辺住宅への騒音対策は、来年度、近隣への説明などの機会を設けるとともに、設計において考慮してまいります。
20	最近、車椅子での観光が増えているので、バリアフリーは当然だが、その対策も必要である。手すりだけでは不十分なので、それに寄り添うボランティアがいればベターである。見学順路としては、南側から入って東側に抜ければ良い気がする。	体の不自由な方への配慮については、今後検討してまいります。
21	その他の施設機能において、施設のバックヤードの使用方法について説明が欲しい。	基本設計・実施設計の段階で検討してまいります。

	意見の要旨	市の考え方・対応
22	敷地利用計画には、植栽等が明記されていない。周囲の環境を考慮すると植栽計画は重要な要素であり、もっと検討すべきである。	基本設計・実施設計の段階で検討してまいります。
23	交流広場について、中心の広場が南に来ており、北がセミパブリックスペースになっている。南の広場は歩行性を重視し、ハレの日のために雑壇を設けるとあったが、北の広場も、回りはギャラリーやショップ等に囲まれている。南の広場と同じくらい、北の広場の持つポテンシャルは高くなるだろうと思われる。もっと魅力的な空間になるようにスタディすべきである。	基本設計・実施設計の段階で検討してまいります。
24	制作企画室について、アトリエは個室にすべきでない。美大生の住んでいるアパート自体個室の空間である。クローズドな部分は必要だが、この施設には要らない。加えて大学には土日もある工房棟がある。そこは時間制限があり、9時から17時までしか使えない。この制作室は、大学では準備できない時間と空間と制作に必要な道具を揃えるべきである。	施設は、独立・起業を目指すアーティストのほか、一般市民も対象とした施設であるため、個室を想定しております。広い空間での公開制作などは、「起業支援（企画・展示）スペース」も活用できるよう想定しております。